

《中間発表 概要》

7月11日火曜日に、第1回SSH学校公開として、2学年による学術研究Ⅱ「中間発表」があった。ゼミに分かれて、班ごとに昨年度2月から始めた本格的な課題研究のこれまでの活動内容や、現時点での成果、これからの研究の展望などを述べた。また、大学生のTAや先生方、そして同級生との活発な質疑応答により、今までは気付かなかった課題を発見するなど、今後の研究に向けて有意義な時間を過ごすことができた。

《各ゼミにおける発表の様子》

物理ゼミ

どの班も実験のデータを豊富に集め、研究の成果をしっかりとまとめていて、発表の内容もとても分かりやすかった。しかし、発表時間に収まらなかったり、原稿に頼ったりしている班も散見されたので改善したい。

地学ゼミ

班によって発表できた研究データの量に差があった。一方、質問の数が前回の発表会よりも格段に増加し、有意義な発表会になった。担当教員からは、抽象的な言い回しや類義語・同義語についてなど、表現に関する助言があった。

化学ゼミ

全体的に質疑がしやすい雰囲気、仮定と結論の一貫性についての質問は、今後の研究の方向性を考えるのに役立った。また、「効果的」などの曖昧な表現の具体化を求める指摘が多かったため、次回から意識したい。

数学ゼミ

個々が積極的に質疑応答に取り組んでいて、中には研究者が気づかないようなものもあったため、非常に有意義であった。

生物ゼミ

写真やグラフなどの定量的なデータとともに意見を述べる場面が多く見られ、以前よりも格段に良い発表活動となった。質疑応答では鋭い指摘や活発な意見交換があり、今後に向け有意義な時間となったため、長期休業中にも研究を続け、今回得た改善点を活かし、一段上の研究となることを期待する。

情報ゼミ

引き締まった雰囲気、聞き手側も発表に興味を持って相槌を打ちながら聞くことが出来ていた。教員からは、似ているものを混ぜてデータをとってしまうと、特徴が出にくい可能性があるという指摘を受けた。

国語ゼミ

生徒を始め、学校内外の先生も質疑に加わり、活発な活動となった。しかし、質問と回答のズレがあるところもあり、課題が見られた。また、研究の内容については、アンケートの取り方への疑問点が多く、目的や方法を明確にして行うことを再確認する必要がある。



質疑応答の様子

地歴ゼミ

テーマに沿った問題意識をもっており、序論の説明がしっかりしていたため発表全体の構成も分かりやすかった。スライドは数値に基づいた、具体的にイメージしやすいものが多く工夫を感じられた。

公民ゼミ

質疑応答によって、相互のプレゼンテーション能力を高めること、中間発表までの研究を伝えることを意識したため、核心をつく質問が多かったが、発表者もしっかりと対応することが出来ていた。しかし、テーマが絞りきれず研究の目標が曖昧な班が多かったため、今後改善していきたい。

英語ゼミ

今回が初めての英語での発表だったが、どの班も丁寧にスライドを作成しており、意欲が伝わる、質の高い発表会となった。先生から、発音やアクセントについての助言をいただいたので改善したい。

保体ゼミ

レポート配布型の発表だったため、その内容に加えた補足説明、専門用語の解説など、初めて聞く人にも伝わるような工夫をしていた。ポスター発表までの残りの期間で、保体ゼミならではの実用的な研究に取り組んでいきたい。

音楽ゼミ

先生からスライドが見やすかったという良い点と、配布資料の文字が多いという悪い点の指摘をいただいたので、より理解しやすいように工夫をしようと思う。質疑応答で頂いた、研究内容や方法に関する多くの助言をもとに今後の研究をより深めていきたい。



発表の様子



発表の様子



質疑応答の様子

家庭ゼミ

先行研究の情報の不足や一般論を前提として話を進めてしまった点が、課題として挙げられたため、一般論を客観的な面から吟味した上で、私達なりのオリジナリティを持った研究を進めていきたい。

災害研究ゼミ

前回の発表会に比べ、研究の根本を疑う質問が減り、より良い研究のための質問が増えたように思えた。どの班も今後に期待が持てる発表だったので、次回の発表が楽しみになった。

編集後記

どの班も、前回のテーマ設定発表会の反省を活かし、改善を行い、以前よりも活発で実りのある発表会へなったと感じました。しかし、まだまだ多くの改善点が残っていることも分かりました。TAの先生方、学校外の先生方から貰った意見を活かし、今後の活動をより良いものにしていきたいと思えます。